「神は男性と女性を造られた」エペソ５：３３　　１７・１１・５

Ⅰ「それはそれとして、あなたがたもそれぞれ、自分の妻を自分と同じように愛しなさい。妻もまた、自分の夫を敬いなさい」：３３。

ここには、「互いに愛し合いなさい」という事は根底にあるが、あえて男性と女性の違いが記されている。女性である妻は、男性である夫に愛される（良く話を聴いてくれて、気持ちを受け留めてくれる）事を求め、男性である夫は、女性である妻から敬われる（やったことを評価される、褒めれ尊敬される）事を求める。神は男性と女性を違う存在として、相補い合う者として造られた。

Ⅱ「神は人をご自身のかたち（御性質のかたちに似せて）として創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された」創世記１：２７。

人を造られた三位一体の神は、男性でも女性でもないが、男性らしさと女性らしさの完全にバランスの取れた御性質、恵みとまことに満ちた神である。神は、男性と女性を競争する者としてではなく、違う存在として、相補い合う者として造られた。

Ⅲ「主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。女が男から出たのと同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から出ています」Ⅰコリント１１：１１，１２。

神は、男性と女性を大切な存在として造り、相補い合う存在として造られた。

Ⅳ　神が造られた男性と女性の違いを理解して神からの使命を協力して行う事が大切。

１．神に造られた女性は、男性より、女性同士でおしゃべりをするのが好きである。

神に造られた目的型の男性は、ある話し合いで目的が達成すると、それ以上、おしゃべりは広がりにくい。個人差はあるが。神が造られた女性は、左脳の中でも言語中枢が発達していて、右脳の方では感情的機能が目立っている。

男性が、言語機能を使い果たして帰宅する。女性である妻も、一日色々な事があり、その事を聴いてもらおうと、ご主人との会話を楽しみに迎える。しかし、男性である夫は、疲れており、妻の話に関心を示すゆとりがなく、妻は、「夫に愛されていない」と感じる。

夫は、難しい人間関係の仕事を終え、くたくたになり家に戻り、妻から「今日も一日、難しい仕事をよくやりました。ひどい言葉にもよく耐えました」と敬って欲しいと願う。そこには男性と女性のずれがある。

共働きなら、ゆとりがお互いになく、なお大変であろう。神の助けが必要である。

２．神が違う存在として造られた男女が、家庭、職場、学校、社会で協力して事を成す場合、神が造られた「男と女は造りから役割まで、すべて根本的に違う」という事実を本気で受け止める事が必要である。

３．男性は「事実発見型」。特別に言わなければならない大事な事でない限り、取り立てて言う必要を感じない。

男の子を持つお母さんの経験。「〇〇。今日どうだった？」返事「別に」。会話が続かない。個人差

はあるが。女の子は違う。「あのねあのね、お母さん、今日、こんな事があったんだよ！」。「そう。それで」と会話が続く。女性は「体温計」。自分がその時々「どのように感じているのか」という気持ちを大切にする。その気持ちを、自分の体温計で計って一緒に感じていたい。また女性の方が直観的。するどい。男性は、事実を分析し、それをまとめようとする。どちらが良いではなく、違いを認めて、補い合う。

４．男性は、目標達成型。それ故に会話の目的が達成すれば、会話が続きにくい。買い物も、目標の物を買えれば、家に帰る。

女性は同情と感情を共有したい。女性は、感情、気持ちの共有をしたいので、会話の方向が、あちらに行き、こちらに行っても問題はない。男性は、どこに向かっていくのかわからない会話には、なかなかついて行く事が出来ない。会話そのものを楽しむことが出来る。そこに男性は入らない方が良い。話をまとめたがり、いやがられる。

※大切な会議で時間に限りがあり、まとめる男性の賜物は必要とされる。女性は、雰囲気、ウインドウショピングを楽しめる。違いが分かると、接し方がわかる。

５．男性は、客観的な傾向。女性は共感的。どちらも必要。神は男女を違うように造られ、協力し合うようにされている。

Ⅴ　まとめ。

１．エペソの５：２２－３３は、夫と妻の関係だけの御言葉ではなく、花婿であるキリストと花嫁である教会の関係を示している。キリストは、私達、教会を命を懸けて愛しておられ、私達教会の為に十字架で死に、罪を償い、愛し赦してくださっているだけではなく、私たち教会を聖め続けておられる。今も。それは再臨の時、聖く罪の傷のない栄光の教会を花婿であるご自分の前に立たせるためである。：２７。

２．「この奥義は偉大です」：３２→

①男性であるアダムのあばらの骨から、女性であるエバが造られたように（創世記２：２１，２２）、十字架でのキリストの御体の傷、贖いの恵みから、私達、教会が救われ新しく造られた。

②「男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである」。：31

神である御子キリストは、私達、教会と結ばれ、一体となる為に、天の御父のみもとを離れ、クリスマスに赤ちゃんにまでへりくだり、33 歳の時、十字架の上で「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ２７：４６）と叫ばれ、実際に、私達、教会を救い、結ばれ、一体となる為に、御父との愛の交わりを離れ、断絶し、私達の罪の刑罰を受けられた。何という愛！

３．御言葉の順序、文脈＝夫と妻、親と子、すべての隣人との関係の愛、尊敬の源→

①「ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩（不品行、乱れた生活）があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい」エペソ５：１８。

私達には、愛はない。しかし、神に求めることが出来る。御霊は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の実を私達に与えて下さる。

②「キリストを恐れて、互いに従い合いなさい」５：２１。

互いの人間関係の前に「キリストを恐れて」がある。まず主が私達を命を懸けて愛し、救い、聖め続けておられる恵みを感謝し、主を恐れ敬い、主からの愛で互いに従い合いたい！